

ふるさと歴史アラカルト

岩国の昔ばなし5 城山の石、崩れ落ちる(後編)

大きな音の原因を調べるために城山に入った藤田葆たちは、谷を100mくらい登ったところで、大きな榎とその側に畳2枚くらいの大きさの石が一つあるのを見つけました。その石は、山の上から落ちてきてここで止まったもので、石が止まっていなかったら武具庫は粉々になっていた、と皆は恐怖したそうです。さらに登ると、所々に木を倒した跡や穴がありました。そして、旧天守から90mくらい下の八合目まで登った場所に、1坪くらいの大きさの石が抜けた跡がありました。しかし、不思議なことにその場所は絶壁ではなく、半分平地の緩やかな斜面だったのです。土砂の崩れた跡もなく、この石が抜けた跡だけが残っていたため、人が手で抜いて落としたようにも見えました。皆は不審に思い、判断もつかず、これは天狗の仕業ではないかと言いながら山を下りました。そして藤田葆と同僚の桂左仲は御用所(現在の議

会に相当する役所)に行き「昨夜の音にはお殿様も驚かれていますでしょう。これは大きな石が落ちたためで、先ほど調べに行ったところ、このようなことだったのです」と報告しました。寺谷(現在の紅葉谷)の方も石が落ちたものと思われましたが、確認には行かなかったそうです。

この事件は、当時、岩国藩主吉川経幹の上京に対して、岩国の人々の動揺が激しかったため起きたと考えられました。実際、元治元(1864)年7月19日、京都では禁門の変が起こり、そこで御所に発砲した長州藩は朝敵(朝廷の敵、国賊)となり、上京途中だった経幹の船は岩国に引き返すこととなりました。

なお、この話に登場し『岩国沿革志(怪談録追加・実事談)』の編者でもあった藤田葆は、この話は実話であり、いまだに疑問は晴れていないと述べています。

今回の史料

『岩国沿革志(怪談録追加・実事談)』江戸時代に岩国藩士広瀬喜尚が記した「岩邑怪談録」を藤田葆が編集し、怪談話や実話を追加したもの。

明治43(1910)年。

※正式には岩国藩の成立は慶応4(明治元年1868)年



▲旧岩国城下図(横山)

いわくにちょうかん 岩国徴古館

昭和20年に旧岩国藩主吉川家によって建てられ、その後岩国市に移管された市立の博物館

住所：横山二丁目7-19 ☎0452
休館日：月曜(祝日の場合はその翌日)

岩国市 人口・世帯

人口 142,063 人【前月比 -815人】 男性 67,214 人 女性 74,849人

世帯 66,548 世帯【前月比 -104世帯】 ※外国人人口を含む(平成26年4月1日現在)

交通事故発生件数 3月分事故件数 59件(140件) 死者数 0人(2人) 傷者数 71人(168人)

※高速道路発生分を除く

※()内は平成26年累計

広報テレホン

休日在宅医療機関、イベント情報などをお知らせしています。テレホンサービス ☎231234

目の不自由な人へ

「広報いわくに」のカセットテープをお貸しします。音声読み上げのためのテキスト版を、ホームページに掲載しています。

お問い合わせはお気軽に、秘書広報課広報班へ ☎295016 FAX213337